

世界臨床検査通信シリーズ-3

Choosing Wisely® Campaignが世界に広がる ～過剰診療について考えよう～

国際臨床病理センター・自治医科大学名誉教授 河合 忠

1970-80年代から医療技術の急速な進歩によって、新しい診断法や治療法が多く利用され、医療費の高騰と共に過剰診療が議論されている。診断分野では、高額な画像検査と共に、検査室中央化の普及により臨床検査件数の増加が指摘されてから久しい。米国からの報告では、医療費の約30%は“無駄に”使われているとの報告があり、他の先進国からもほぼ同様な報告がある。過剰診療は患者にとって経済的、心身的に負担を増すだけでなく、時には有害な結果を招くこともある。2012年、American Board of Internal Medicine (ABIM) Foundationが主導し、American Society for Clinical Pathology (ASCP)を含めた9つの専門医学会と「Consumer Reports」誌も加わって、米国でChoosing Wisely® (賢い選択) Campaign (CWC)が始まり、主催者の期待以上に賛同者が米国のみならず世界に広まりつつある。

CWCでは、各専門医学会からエビデンスに基づいて5つの“望ましくない (Don't) 検査、治療、手技”を提案し、それらを医学界はもとより、一般市民にも分かり易く広く公開し、医療提供者と市民の間で相互に考え、過剰診療を減らそうといういわば“草の根活動”である。2013年からはRobert Wood Johnson Foundationから助成を受け、2015年末には70余の専門医学会が参加し、400項目以上の提案(約40項目が臨床検査関連)が公開されるまでに発展している。2015年には3,700のメディアが取り上げ、約110の雑誌に関連論文が掲載された。さらに、2015年から新規プロジェクトとして、提案された項目の中から医学界と患者側、それぞれに“絶対読んでほしい5つの論文・記事 (Must-Read Choosing Wisely Articles)”をABIMが選んで紹介している。また、2016年3月にはChoosing Wisely® Championsプログラム(優れた効果を上げた個人・チームを顕彰する事業)が始まった。

CWCは今や米国以外にも広がり、カナダでは、2014年4月Canadian Medical AssociationがChoosing Wisely Canadaを立ち上げ、9つの専門医学会が参加、20項目の提案を公開し、医科大学とも連携し、医学生にまで広く情報を提供している。オーストラリアでは、2015年4月、保健省の予算でNPS MedicineWiseがChoosing Wisely Australia®を立ち上げ、5つの専門医学会(Royal College of Pathologists of Australasia, RCPAを含む)が参加し、25項目の提案を公開している。英国では、2015年4月、Academy of Medical Royal Colleges (AoMRC)がChoosing Wisely UKを立ち上げ活動を開始している。こうした活動は2015年6月の時点で少なくとも18カ国において、既に始まっているか、近い将来始まろうとしており、2014年6月第1回国際会議アムステルダム、2015年6月第2回国際会議ロンドン、そして第3回国際会議が今年ローマで開催される予定である。日本でも、2015年1月、萌芽的Choosing Wisely Japanが名乗りを上げており、今後の組織的活動への発展が望まれる。

無数ともいえる医療ガイドラインがそれぞれの国または国際団体から公開されているが、個々の患者の診療は最終的に主治医vs患者個人の個別の関係で成立する行為である。しかし、医療の無駄や有害事例を減らす努力が必要であり、よってCWCは医療提供者と受診者との間の会話を促し、より適切な医療環境を作り上げるための行動目標として、今後さらに世界中に広まることであろう。